

## 1 自己評価及び外部評価結果 (1ユニット)

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102434		
法人名	丸正篠田薬品株式会社		
事業所名	グループホーム 榊並木の家族		
所在地	岐阜県岐阜市都通1丁目18番地		
自己評価作成日	平成21年6月8日	評価結果市町村受理日	平成21年8月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102434&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102434&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成21年7月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、ご自宅と同じように、ゆったりと居心地よく暮らしていただく「お家」です。  
また、専門のスタッフがアットホームな雰囲気とこまやかな安心ケアで、安らぎの住生活をお約束します。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

榊(けやき)並木がある本郷通り角の薬屋さんのビル2F・3Fにホームはある。岐阜市の中心街で、商店、公園、郵便局、図書館等々、豊富な地域資源を、買物、外食、散歩等に活用して支援が行われている。代表者が昔から住んでいた地域で、利用者も地域住民と馴染みの関係になっている。利用者と職員は家族のような関係で、一般家庭にある段差を生かしたケアが行われている。医療面では、協力医との連携がとれ、契約時から重度化や終末期に向けての話し合いが行われ、職員は自然なことから捉えている。家族や友人の訪問が多い開放的な雰囲気である。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、日常的に職員に話しているため、職員は理解し実践につなげている。また、分かりやすい様に運営理念を額縁に入れて掲示している。	『尊厳』に思いをはせ、日々のミーティング等で話し合い実践につなげている。職員は心にゆとりを持つ時間を意識し、ケアに反映していくことに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民運動会や盆踊りに参加している。	管理者が昔から暮らしていた地域な為、地域の人も気軽に声かけをしてくれ、散歩、買物、ご近所のカレーハウスでの食事等々日常の中で挨拶を交わしている。また図書館を定期的に利用出来る支援もしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会、社協での民生委員を含めた会議に出席し、町内会等でも絶えず説明を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営促進会議には必ず出席し、そこでの意見を報告し、サービスに取り入れている。	家族、市の担当者が参加しやすい様、会議の日を調整して、ホームの取り組みを報告し、意見をもらう事によって地域の人から協力が得られるようになった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者間のネットワークを通して働きかけている。	定期的に訪問する市の担当者に、ホームの実情やサービスの取り組みを伝えている。報告する事によって、入浴に関する助言をもらったり相談しやすい関係が出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部屋には鍵をかけずに、自由に出入りしていただいている。	居室には鍵がなく自由に出入りできる。玄関を施錠せずに暮らせないか、色々検討したが、ドアを出て直ぐに階段がある為安全性を考慮して、玄関ドアはオートロックになっている。	日常的な散歩、外出を支援しているが、日中鍵を掛ける事が常態化していないか、全職員で鍵をかけずに安全に過ごせる工夫についての話し合いを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止法を理解しており、グループホーム内で、そのような事があってはならない事を充分理解しており、注意を払っている。		

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、これらの制度を学び、必要に応じて、利用者が活用できるようにスタッフ会議等で話し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては全て書面にて記載し、その上で十分な説明を行い、理解され、納得された者とししか契約していない。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日、利用者の顔色を伺いながら、要望を聞いたり、感じるなどしてスタッフは行動している。また、ご意見箱を設置して利用者やご家族から意見を頂いて、それらを運営に反映している。	家族の訪問時、意見を言いやすい雰囲気作りをして要望等を聞き出している。また利用者からは、毎日の生活の中で会話を通して聞きだし、出された意見、要望等は話し合いをし、反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上行われているカンファレンス時以外にも、随時どんな意見や提案も聞いている。	職員が自由に意見の言えるミーティングを行い、現場の職員の意見を十分に聞きだし、一緒に話し合いながら調整工夫している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ全員を家族のように思っており、常にスタッフ一人一人の心境にまで、気を配っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修参加を重視している。職員一人一人は、管理者から指導や助言を受け、資料の提供などを受けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営促進会議の参加等で、交流を深め、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、アセスメントを行っている。本人の話すことや、表情を見過ごさないようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が心配することなく、利用者に利用してもらえるために、どんな意見にも耳を傾け、話し合い、納得されるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族以外にも、医師やケアマネジャー、相談員を交えて、必要な支援を見極めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、一緒に食事をしたり、散歩に出かけたりして、家族のように接している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開いたり、お楽しみ会に参加して頂き、交流の場を提供している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相手の都合に配慮しながら、自由に電話連絡ができるし、特に、時間拘束もないので、自由に外出されています。	家族の協力を得ながら、馴染みの場所での買い物などが継続して出来る様にしている。外出が困難な利用者には、電話連絡が出来る様にして、友人の訪問も頻繁にある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、インストラクターによる物作りや遊びで、助け合い、触れ合える場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談にのっており、家族には感謝していただいている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全てにおいて、強制することなく、自由に暮らしてもらっている。意思表示の困難な方は、顔色をうかがって気持ちを汲み取っている。	開放的な人が多く、知和喧嘩もあるが見守っている。顔色や状況に変化がある場合は、居室で話しやすい環境を作り、利用者が話し出すまで待つ対応をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個室には、使い慣れたベッドやタンスなどの家具を持ち込むなどして、あまり生活環境を変えないようにして生活している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者と同じ空間で過ごすため、常に一人一人の様子を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間ごとの見直しをしている。それ以外にも状況の変化に素早く対応して、計画を練り直している。	嗜好品等本人の希望や、家族の思いを反映させた計画書を作成している。月に1回モニタリングやケア会議で介護計画の見直しを行い、計画に基づいたケアを実地している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報により、行動・特記事項・連絡事項を記録している。また、一人一人に対して、チェック表に排泄・バイタル・食事量・水分量などを詳しく記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の求めていることを把握し、これによって、アセスメントを行い課題を明らかにしてから、支援やサービスに取り組んでいる。		

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署、警察署、交番に充分に働きかけ、見守りの協力を得ている。職員も地域の人々に溶け込んでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前より、かかりつけ医のある方は、引き続き受診されている。特に希望のない方に対しては、提携医療機関にお願いしている。	家族の協力を得て入居前からのかかりつけ医を受診している。通院が困難な利用者は、月に2回訪問診療、訪問歯科が受けれる体制作りをしている。また毎日血圧測定をし体調管理を重視している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職の配置がないため、かかりつけ医に相談、受診し、一人一人の健康管理につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者が出向いたり、電話等により、話し合いをして、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師や家族と充分に話し合い、できる限りの情報提供をおこない、職員全員で支援している。	重度化や終末期の対応について、契約時から話し合いを行っている。職員は、医療関係者や家族と相談連携しターミナルケアに不安なく取り組み、家族の泊まりも支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議やカンファレンスの中で、訓練している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者は、職員が災害時に避難誘導ができるよう、教育し、訓練を行っている。	年に1回消防署と防災訓練を実地している。また民生委員の会議、運営推進会議時に、地域住民の協力が得られるよう話合っている。避難場所を散歩のコースの中に入れて、認識が出来る様にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、時には意見を仰ぐようにしている。入浴や排泄の誘導などには、特にプライバシーに配慮して行っている。	人生の先輩として尊重し、問題がない限り見守りのケアに取り組んでいる。理念でもある尊厳を大切に、名前の呼び方など十分注意をする様心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と一緒に買い物に出かけ、自分で品物を選んで支払いをしてもらっている。(可能な方の場合)あるいは、好きなテレビ番組を選んで、チャンネルを合わせて視聴してもらっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のリズムの中で、利用者が自分のペースで暮らせるように自由してもらっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者は、それぞれ好みの髪型、服装をしており、各々おしゃれを楽しんでいる。理美容院の利用を希望される時は、職員が付き添って行く。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、介助する一方になるのではなく、必ず利用者の方を向いて、笑顔で一緒に楽しんで、食事をするように心がけている。利用者と一緒に献立をたて、食材を買いにいったり、可能な限り一緒に調理を行っている。	利用者と一緒に買い物に出かけたり、食材の色どりを考え、皆と一緒に楽しく食事ができる支援をしている。週1回冷蔵庫の整理として、献立を皆で考える日を作っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量・食事内容・水分量をチェックし記入している。また、一人一人の状態に合わせて、細かく刻んだり、柔らかく煮込んだりしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、歯磨きを常に支援している。それ以外にも、朝晩のケアも実施している。		

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入から、一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや見守りにより、できる限り、おむつを使わず、トイレへと誘導している。また、プライドを傷付けないよう人前では行わない配慮をしている。	建物の設計上トイレが少し狭く、段差がある。トイレで排泄が困難な利用者は居室にポータブルを置き、個別の排泄支援をしている。誘導の声かけが大きかったり、居室入り口が開放されたまま対応している時がある。	居室での排泄介助時など、全職員がプライバシーを守れるよう検討される事を期待する。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食物繊維の多い野菜を多く取り入れた食事を提供している。また、水分量にも配慮している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に、本人の体調とチェック表を確認し、入浴の可否を見極めている。入浴は週2回以上のペースとしているが、希望があれば随時入浴可能である。常時、くつろいだ気持ちで入浴できるように支援している。	通常は二日おき、14時より実施しているが、希望があれば随時対応する用意はある。入浴剤を使用したり、長湯を希望する利用者には気遣いするなど、一人ひとりにあった入浴が出来る支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者とは、他の利用者の配慮をしつつ、一緒に相談室で会話をしたり、ベッドまで付き添い、落ち着いて眠りにつくまで見守りを支援している。本人の眠りに影響している日常の事を職員は話し合ったりしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	代表者が薬剤師であるため、常に薬の目的、副作用等がチェックされており、職員に指示されている。用法容量が間違わない為にも、薬は、全て一方化され、氏名と服用時が印字されている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の後片付けや洗濯物を干したり、取り込んで、たたんだり、又、自室の掃除をしたりとそれぞれの場面で、役割作りがされている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、食堂にて一緒にお茶を飲んだり、買い物に行ったりなど希望があれば、職員と一緒に外出している。	車椅子での買物や、毎日複数回の散歩を支援している。喫茶店のモーニングや誕生日の食事会、公園での花見や外食後の花火大会も楽しみな行事となっている。その他車で利用者の自宅を見に行くなど、本人の希望にそって支援している。	

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が可能な利用者は自分で行き、不可能な利用者は、その都度本人の預かり金から渡し、出納帳に記入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話機が設置されており、利用者は好きな時に自由に使うことができるようになっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物、室内全て、家庭的な雰囲気を作っている。居間には、ゆったりとしたソファが設置されており、くつろぎやすくなっている。ビルの入り口には、季節のお花を置いている。	2DK・3DKの住宅を改装して1フロア5室のユニットとなっている。玄関、食堂、トイレ等広さに問題はあるが、見晴らし、温度など居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の部屋には、他の利用者が無断で入室できない規則になっている。また、気の合った利用者同士と一緒に過ごせるように、リビングを設けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋には、今までに本人が使用していた家具や生活用品が持ち込まれている。	居室には高さの低い家具が持ち込まれ、その上に家族写真やお花、お供え物などが飾っている。またカレンダー、時計、テレビ等々の生活用品があり、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個人部屋のドアには、本人の顔写真を貼って、楽しく分かりやすい工夫がしてある。		

# 1 自己評価及び外部評価結果 (2ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	
事業所名	
所在地	
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、日常的に職員に話しているため、職員は理解し実践につなげている。また、分かりやすい様に運営理念を額縁に入れて掲示している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民運動会や盆踊りに参加している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会、社協での民生委員を含めた会議に出席し、町内会等でも絶えず説明を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営促進会議には必ず出席し、そこでの意見を報告し、サービスに取り入れている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者間のネットワークを通して働きかけている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部屋には鍵をかけずに、自由に出入りしていただいている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止法を理解しており、グループホーム内で、そのような事があってはならない事を充分理解しており、注意を払っている。		

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、これらの制度を学び、必要に応じて、利用者が活用できるようにスタッフ会議等で話し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては全て書面にて記載し、その上で十分な説明を行い、理解され、納得された者とは契約していない。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日、利用者の顔色を伺いながら、要望を聞いたり、感じるなどしてスタッフは行動している。また、ご意見箱を設置して利用者やご家族から意見を頂いて、それらを運営に反映している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上行われているカンファレンス時以外にも、随時どんな意見や提案も聞いている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ全員を家族のように思っており、常にスタッフ一人一人の心境にまで、気を配っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修参加を重視している。職員一人一人は、管理者から指導や助言を受け、資料の提供などを受けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営促進会議の参加等で、交流を深め、意見交換をしている。		

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、アセスメントを行っている。本人の話すことや、表情を見過ごさないようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が心配することなく、利用者に利用してもらえるために、どんな意見にも耳を傾け、話し合い、納得されるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族以外にも、医師やケアマネジャー、相談員を交えて、必要な支援を見極めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、一緒に食事をしたり、散歩に出かけたりして、家族のように接している。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開いたり、お楽しみ会に参加して頂き、交流の場を提供している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相手の都合に配慮しながら、自由に電話連絡ができるし、特に、時間拘束もないので、自由に外出されています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、インストラクターによる物作りや遊びで、助け合い、触れ合える場を作っている。		

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談にのっており、家族には感謝していただいている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全てにおいて、強制することなく、自由に暮らしてもらっている。意思表示の困難な方は、顔をうかがって気持ちを汲み取っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個室には、使い慣れたベッドやタンスなどの家具を持ち込むなどして、あまり生活環境を変えないようにして生活している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者と同じ空間で過ごすため、常に一人一人の様子を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間ごとの見直しをしている。それ以外にも状況の変化に素早く対応して、計画を練り直している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報により、行動・特記事項・連絡事項を記録している。また、一人一人に対して、チェック表に排泄・バイタル・食事量・水分量などを詳しく記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の求めていることを把握し、これによって、アセスメントを行い課題を明らかにしてから、支援やサービスに取り組んでいる。		

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署、警察署、交番に充分に働きかけ、見守りの協力を得ている。職員も地域の人々に溶け込んでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前より、かかりつけ医のある方は、引き続き受診されている。特に希望のない方に対しては、提携医療機関にお願いしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職の配置がないため、かかりつけ医に相談、受診し、一人一人の健康管理につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者が出向いたり、電話等により、話し合いをして、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師や家族と充分に話し合い、できる限りの情報提供をおこない、職員全員で支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議やカンファレンスの中で、訓練している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者は、職員が災害時に避難誘導ができるよう、教育し、訓練を行っている。		

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、時には意見を仰ぐようにしている。入浴や排泄の誘導などには、特にプライバシーに配慮して行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と一緒に買い物に出かけ、自分で品物を選んで支払いをしてもらっている。(可能な方の場合)あるいは、好きなテレビ番組を選んで、チャンネルを合わせて視聴してもらっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のリズムの中で、利用者が自分のペースで暮らせるように自由にしてもらっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者は、それぞれ好みの髪型、服装をしており、各々おしゃれを楽しんでいる。理美容院の利用を希望される時は、職員が付き添って行く。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、介助する一方になるのではなく、必ず利用者の方を向いて、笑顔で一緒に楽しんで、食事をするように心がけている。利用者と一緒に献立をたて、食材を買いにいたり、可能な限り一緒に調理を行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量・食事内容・水分量をチェックし記入している。また、一人一人の状態に合わせて、細かく刻んだり、柔らかく煮込んだりしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、歯磨きを常に支援している。それ以外にも、朝晩のケアも実施している。		

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入から、一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや見守りにより、できる限り、おむつを使わず、トイレへと誘導している。また、プライドを傷つけないよう人前では行わない配慮をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食物繊維の多い野菜を多く取り入れた食事を提供している。また、水分量にも配慮している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に、本人の体調とチェック表を確認し、入浴の可否を見極めている。入浴は週2回以上のペースとしているが、希望があれば随時入浴可能である。常時くつろいだ気持ちで入浴できるように支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者とは、他の利用者の配慮をしつつ、一緒に相談室で会話をしたり、ベッドまで付き添い、落ち着いて眠りにつくまで見守りを支援している。職員は、本人の眠りに影響している日常の事を話し合ったりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	代表者が薬剤師であるため、常に薬の目的、副作用等がチェックされており、職員に指示されている。用法容量が間違わない為にも、薬は、全て一方化され、氏名と服用時が印字されている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の後片付けや洗濯物を干したり、取り込んで、たたんだり、又、自室の掃除をしたりとそれぞれの場面で、役割作りがされている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、食堂にて一緒にお茶を飲んだり、買い物に行ったりなど希望があれば、職員と一緒に外出している。		

櫻並木の家族

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が可能な利用者は自分で行き、不可能な利用者は、その都度本人の預かり金から渡し、出納帳に記入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話機が設置されており、利用者は好きな時に自由に使うことができるようになっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物、室内全て、家庭的な雰囲気を作っている。居間には、ゆったりとしたソファが設置されており、くつろぎやすくなっている。ビルの入り口には、季節のお花を置いている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の部屋には、他の利用者が無断で入室できない規則になっている。また、気の合った利用者同士と一緒に過ごせるように、リビングを設けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋には、今までに本人が使用していた家具や生活用品が持ち込まれている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個人部屋のドアには、本人の顔写真を貼って、楽しく分かりやすい工夫がしてある。		